

## 運動事象知覚における感情・言語情報の利用

郷原, 皓彦

<https://hdl.handle.net/2324/2236004>

---

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (心理学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏名	郷原 皓彦			
論文名	運動事象知覚における感情・言語情報の利用			
論文調査委員	主査	九州大学	准教授	山田 祐樹
	副査	九州大学	教授	中村 知靖
	副査	九州大学	准教授	橋彌 和秀
	副査	山口大学	准教授	小野 史典

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、双安定性を持つ運動事象である交差・反発事態 (stream/bounce display: SBD) の知覚が感情情報や言語情報の付加によりどのように変容するかを、実証的研究により明らかにしたものである。具体的には感情情報を有する刺激を SBD に同時呈示する実験を行い、その結果覚醒度の高い刺激を同時呈示した場合に反発知覚が誘発されることを見出した。さらにこの効果は刺激を SBD におけるオブジェクトの重畳から大幅に先行呈示した場合にも頑健であった。また、言語刺激を SBD に対し様々な呈示タイミングにて同時呈示した実験では、言語刺激の意味情報は感情情報と同程度の時間範囲にて SBD の知覚を変調し、一方で言語の音韻情報は非言語音を呈示した場合と同程度の、オブジェクトの重畳から近い時間範囲にて SBD の知覚を変調することが明らかになった。これらの研究ならびにこれまでの先行研究で提出された知見を基に、SBD に対する一意な知覚の決定に対し感情・言語情報を含む手がかり情報が利用される過程について議論した。その結果、感情情報や言語の意味情報はオブジェクトの運動軌道の変化に関する手がかり、言語の音韻情報はオブジェクトの衝突の有無に関する手がかりとして利用されている可能性を指摘し、これらの手がかりの情報が統合され SBD の知覚の決定に利用されるモデルを提案した。このように本論文は、SBD の知覚に関する研究にてこれまで検討されてこなかった感情情報ならびに言語情報の影響について解明し、またこれらの情報が統合され SBD の知覚を決定づける手がかりとして利用されるまでの処理過程を提案したものであり、この点で価値のある研究と言える。よって、本論文は博士 (心理学) の学位に値するものと認める。